

2018年度ユニーク卒論

社会 学部

担当教員名	今井 信雄
論文執筆者名	栗栖 杏奈
論文の題 (テーマ)	セクシュアル・マイノリティのアイデンティティの作られ方 — どうやって自分がセクシュアル・マイノリティだと認識するのか
簡単な内容 (概要)	<p>本論文では、セクシュアル・マイノリティ当事者7人のライフストーリーを通して、セクシュアル・マイノリティ当事者がどうやって自身がセクシュアル・マイノリティだと認識していくのか、ということについて考察を行ったものである。</p> <p>インタビュー調査により、セクシュアル・マイノリティというカテゴリーに置かれる人々が、多様な自己認識過程を経て当事者としてのアイデンティティを持ちうるということが明らかになった。</p>
推薦の理由	<p>まず、7人のセクシュアル・マイノリティ当事者のライフストーリーをまとめることができたという点において、非常に独自性の高い卒業論文となっている。当事者たちの自己認識に至る多様なライフストーリーは、けっして「セクシュアル・マイノリティ」というカテゴリーでひとくくりにできない人生のあり方を示している。</p> <p>また、7人の当事者とコンタクトをとり、その人生を語ってもらうという調査手法は、誰もが行うことが可能なのではない。本学生の研究テーマに対する真摯な姿勢が、それぞれ当事者とのラポールを形成せしめたと言え、それを成し遂げた点においても、本学生の卒業論文は高い評価を与えることができる。</p> <p>さらに、ヘテロセクシュアルにおけるホモフォビアの視点によってセクシュアル・マイノリティとして自分自身に嫌悪感が生まれる、との先行研究結果は、今回のインタビューでは必ずしも当てはまらないことが、本研究結果から指摘された。しかしこれは、先行研究の誤りと言うよりむしろ、セクシュアル・マイノリティをめぐる社会のあり方が急速に変化しつつあることを示していると言え、非常に興味深い結果として読むことができる。</p> <p>以上の理由により、ユニーク卒論として推薦する次第である。</p>